

糸屑状の精莢群を植えつけるものようである。束になった精莢の1個は、全長7~8mm、また太い中央部の直径は0.3mmで、付着鈎のついた鈍端部で外套内壁にさざっている。また、くびれた先端付近は刺戟感受突起をそなえた精巧な機構のものであった。そして、そのノズルの先端からは、解凍した場合、精虫雲を発射することを発見した。精莢の束は左右両側の鰓基部に認められ、このような交接痕跡をもつ既交接雌イカの口球外唇には精虫嚢は1個も発見することができなかった。日本産スルメイカが体外交接痕跡をもつものに対して、大西洋スルメイカは体内交接痕跡をもっているということがいえるであろう。

(文献省略)

5. ICNAFをめぐる最近の国際情勢

今村 弘二(水産庁国際課)

(原稿未着)